とうきょうすくわくプログラム活動報告書　向陽台保育園

テーマ『 水と見立て遊び』

≪テーマ設定理由≫
2 歳児の発達であるごっこ遊びから、
身近な物を使って見立て遊びを楽しみ想像力を
育む。友達同士の関りから遊びが発展していくのではないか

≪環境設定・準備したもの≫
食紅、容器、布、食器、泡、スポンジ、
水風船、容器、レンゲ、透明カップ、お皿、製氷器（様々な形の）
・園庭遊びの際、自由に触れたり共感したりする言葉がけを心がけた。
・広いスペースを確保しつつ、友だちとのやりとりが育むような促しをした。

≪活動スケジュール≫

① 色水でごっこあそび	6月17日
② 洗濯ごっこ	7月23日
③ 水風船	8月15日
④ 色氷	9月08日

≪活動内容・子どもの様子≫

好きな色を見つけ、バケツやペットボトルに入れて‘自分の’と抱える姿があった。そこからコップがあることで「ジュース屋さんですよー！」とごっこ遊びに広がった。
また、色の変化に気付く児もいた。

泡あそびなどの感覚遊びを楽しむ姿があり、そこから洗濯ごっこを取り入れる。普段使用している部屋の布類を自分たちで手洗いし洗濯ばさみで挟む。「あわあわだらけだ！」「きれいにな～れ」と声をかける姿もみられた。

水風船では、感覚遊びの様に握ってみたり顔にくっつけてみたりと、手先だけではない部分も使って関わる姿が見られた。また、太陽光に透かすなど水がどう変化するのかに気付く様子もあった。

色氷では、一人で沢山使いたいと鍋に入れて料理ごっこを楽しむ児がいたが、「ください」と声を掛けると「どうぞ」とお店屋さんのようなやり取りが見られた。ごっこ遊びの世界から友だちとのやりとりが見られた

≪振り返り・気付き≫
水との共存がより身近に感じられる季節。一人で真剣にかかわる姿から友達とのやりとり・日々の生活・経験などを再現するなど日常が遊びに大きく影響していることが改めて感じられた。
毎日触れる水。なじみのあるものだからこそ、大きな抵抗感がなく思い思いにそれぞれがかかわっていられたのではないかと思う。